

ぱれっとスタッフによる 福祉用語解説

「ひとり暮らしは不安だけれど、グループホームでの共同生活よりも、他者の目を気にせず、時間に縛られない自由な暮らしをしたい」。サテライト型グループホーム（以下サテライト）は、こうした地域での自立生活を目指す障がいのある人たちに向けて、新しいグループホームの仕組みとして2014年に創設されました。それに先立ち、東京都では2012年から2年間にわたり「障害者グループホーム等利用者単身生活移行モデル事業」を実施、合計33名の知的障がいのある人たちの地域移行を計画し、そのまま単身生活へ移行した人たちは15名（当時）という成果が報告されています。

●サテライトとは

サテライトとは「衛星」を意味する英語で、「本体から離れた場所に存在する」という表現で使われます。グループホームのサテライトも「本体のホームがあり、そこから離れた場所に、よりひとり暮らしに近い形で作られた居住空間」という意味で使われます。設置に基準があり、①居室面積7.43㎡（既存のグループホームと同じ）②日常生活を営む上で必要となる設備（水回り、電気設備など）③本体のホームと交通手段を利用して20分以内の距離・・・という立地や設備の基準に加え、入居人数は1か所1名、食事や余暇の時間など、本体ホームを利用する機会を設けること、緊急連絡手段を確保する、などの運営上の条件もあります。設置できる数は、本体ホームの入居者が4名以下の場合には1か所、それ以上の場合には2か所と決められています。

●サテライトのメリット

サテライトのメリットは実際に利用した当事者の声から垣間見ることができます。

「前は入所施設だったけど、一人暮らしで

ぱれっとの職員による「福祉用語解説」。今回は地域でのひとり暮らしを見据えた「サテライト型グループホーム」について解説します。

自由なのがうれしい」「ここで練習して、将来は自立したい」「頑張ってお仕事してお金を貯めて、彼と住みたい」・・・本体ホームから最低限必要な支援を受けつつ、より自由な暮らしを体験する中で「その先の人生の選択肢」が広がっていく様子わかります。昔は大型の入所施設一択だった暮らしの場が、地域のグループホームに広がり、さらにひとり暮らしのスタイルへ・・・と発展してきていることを実感します。

●サテライトの課題

2014年に創設され、期待値も高いサテライト制度ですが、課題もいくつか挙げられています。最も大きなものが「期限」です。サテライトの利用は原則3年とされていて、その間に本体のホームを中心に様々な福祉サービスとの連携を図りながら、入居者が自分で生活を送れるように支援体制を作っていくことが求められます。現行制度では、サテライトの利用期限を過ぎると、契約も当事者と物件の持ち主との間での通常の賃貸契約に替わり、経済的にも本当の意味でのひとり暮らしになります。現状、知的に障がいのある人たちにとって、この3年という期限が充分であるとはとても思えません。支援の要となる居宅系の福祉サービスの充実、就労支援事業所からのアプローチ、家族の協力、医療面のケアなど、構築されるべき「支援の輪」は多岐にわたります。

●選択肢を広げる

しかしそれでも、「家から自立するならグループホームしかない」という選択に、当事者が無理矢理合わせるのではなく、サテライトも含めて「自ら選べる人生」こそが本当の豊かさを生み出すのではないのでしょうか。課題は山積していますが、今後の展開に注目しています。

（事務局長 南山達郎）